

2017年5月17日(水)に、教職大学院の共通科目「へき地・複式教育の視点から見た学級・学校経営」の授業の一環として、複式学級のある小学校(大田市立鳥井小学校)を訪問しました。

今回の訪問は、教職大学院の1年生が参加し、複式学級での授業の様子や児童との交流、校長先生をはじめとする教職員の方々との意見交換を行いました。教職大学院の必修科目である「へき地・複式教育の視点から見た学級・学校経営」では、山陰地域の教育課題であるへき地(及び離島・中山間地)での教育や、複式教育、小規模校での教育について取り上げています。特に島根県の教育課題である複式教育については、教職大学院の学生の多くが、今回の訪問で初めて複式学級での授業を実際に見ることとなりました。

島根大学教職大学院の現職教員学生である中学校や高等学校、特別支援学校で勤務する学生や、同じ山陰でも複式学級が少ない鳥取県の小学校に勤務する学生にとっては大きな刺激となったようでした。また、学部新卒学生にとっても、学部段階での教育実習先とは異なる学校現場を見ることが、実践をより理解する助けになったようでした。なお、教職大学院の本授業では、次にこうした学校訪問の成果と課題を分析・検討し、授業のねらいに迫る取り組みが計画されています。

今回の訪問にあたり、全校を挙げて受け入れてくださいました大田市立鳥井小学校の職員のみなさまに心よりお礼申し上げます。



5・6年の算数の授業を見学する様子



3・4年の算数の授業を見学する様子



校長先生の学校経営や「ふるさと教育」の実践に関する説明の様子